

沖縄県スポーツ協会

創立100周年記念式典・祝賀会



令和7年1月

公益財団法人 沖縄県スポーツ協会

【若い力】

1. 若い力と感激に

燃えよ若人胸を張れ
歓喜あふれるユニホーム
肩にひとひら花が散る
花も輝け希望に満ちて
競え青春 強きもの

2. 薫(か)る英気と純情に

瞳明るいスポーツマン
僕の喜び君のもの
上がる凱歌に虹がたつ
情け身にしむ熱こそ命
競え青春 強きもの

目 次

記念式典・祝賀会 次第	1
創立100周年 感謝状贈呈一覧	2
創立100周年 特別功労者一覧	3
令和6年沖縄県スポーツ協会表彰 受賞者(団体)一覧	4
沖縄県スポーツ協会 沿革	7
創立100周年事業実行委員会設置要項	10

創立100周年記念式典・祝賀会

(沖縄県スポーツ協会表彰式・新春のつどい)

- 1 日時 令和7年1月17日(金) 15:00～19:00
2 場所 パシフィックホテル沖縄「万座の間」

司会 富田 めぐみ

次第

式典の部(15:00～16:00)

- 1 開 会 司 会
2 若い力斉唱
3 沿革紹介 公益財団法人沖縄県スポーツ協会
専務理事 平 良 朝 治
4 式 辞 公益財団法人沖縄県スポーツ協会
理 事 長 渡嘉敷 通 之
5 祝 辞 沖縄県知事 玉 城 デニー
沖縄県議会議長 中 川 京 貴
公益財団法人日本スポーツ協会
専務理事 森 岡 裕 策
6 表 彰
1) 創立100周年事業 感謝状贈呈 特別功労表彰
2) 令和6年沖縄県スポーツ協会表彰
7 受賞者代表あいさつ
1) 創立100周年事業 特別功労者 神 谷 育 雄
2) 令和6年沖縄県スポーツ協会表彰
スポーツ功労者 内 嶺 政 秀

基調講演(16:00～17:00)

- 1 演 題 「岐阜県におけるスポーツ推進計画について」
講 師 公益財団法人岐阜県スポーツ協会
副 会 長 大 友 克 之 (朝日大学学長)
2 謝 辞 公益財団法人沖縄県スポーツ協会
副 会 長 山入端 恵 子
3 閉 会 司 会

受賞者の写真撮影(カネオへの間へ移動)
会場模様替え

祝賀会(17:30～19:00)

- 1 開 会 司 会
2 あいさつ 公益財団法人沖縄県スポーツ協会
理 事 長 渡嘉敷 通 之
3 乾 杯 沖縄県ボウリング連盟
会 長 翁 長 政 俊
4 幕開け(懇談)
5 万歳三唱 一般財団法人沖縄県バスケットボール協会
会 長 日 越 延 利
6 閉 会 公益財団法人沖縄県スポーツ協会
副 会 長 神 谷 良 昌

創立100周年事業 感謝状贈呈一覧

順不同

	企業・団体名及び氏名	功 績 概 要
1	おきなわ でんわ かぶしがいのしや 沖縄セルラー電話 株式会社	本県のスポーツ振興及び本会の諸事業推進に賛同いただき、 多額の寄付をいただいた功績。
2	かぶしがいのしやくさいじゆうき 株式会社 国際重機	
3	かぶしがいのしやなかもとこうぎよう 株式会社 仲本工業	
4	い りょう ほう じん とく しゅうかい 医療法人徳洲会 ちゅうぶ とく しゅうかい びょういん 中部 徳洲会 病院	
5	いっばんしゃ だんほう じん 一般社団法人 おきなわけんぐんよう ち どう じ んしれんごう かい 沖縄県軍用地等地主連合会	
6	あさ ひ だい がく 朝 日 大 学	
7	なが はま ふみ こ 長 濱 文 子	
8	きん じょう し の ぶ 金 城 忍	
9	やま うち しづ お 山 内 志津男	

※ 多額:平成26年度～令和5年度までの間に合計100万円以上のもの

創立100周年事業 特別功労者一覧

	氏名	推薦団体	功績概要
1	おなが まさとし 翁長 政俊	ボウリング	平成27年から沖縄県ボウリング連盟の会長に就任し、永きにわたり連盟発展及び競技力向上に貢献した。
2	おおしろ きよし 大城 清司	テニス	沖縄県テニス協会設立当初(昭和43年1月)より理事兼普及・強化委員長として県内高校初の硬式テニス部を沖縄工業高校で立ち上げ、各高校の教職員へ指導普及を行うことで、那覇高校・浦添高校・首里高校・他複数の学校の生徒へも指導を行い県内各高校テニス部設立を支援、ジュニア選手の指導に尽力した。
3	おおわん あさたみ 大湾 朝民	ウエイト リフティング	永年にわたりウエイトリフティング競技指導者として活躍し、競技の普及発展に尽力。県協会役員も歴任し、国民スポーツ大会において通算18回の団体優勝に貢献するなど、ウエイトリフティング競技が沖縄県の代表的なスポーツとなるまで成長させた。
4	あらかき しばみつ 新垣 柴光	ソフトテニス	長年にわたり沖縄県のソフトテニスの普及・発展に多大なる貢献をなされました。その功績を称え沖縄県体育協会(現・沖縄県スポーツ協会)を始め、日本ソフトテニス連盟、西日本ソフトテニス連盟、九州ソフトテニス連盟において数々の功労賞を受賞。新垣氏なくしては県ソフトテニスの歴史は語れません。
5	いしはら まきひろ 石原 昌弘	剣道	長年に亘り、沖縄県剣道連盟の役員として組織運営に携わり、自らも後進の指導育成に尽力し、沖縄県の剣道普及発展に大きく貢献した。
6	ながはま ふみこ 長濱 文子	なぎなた	昭和62年開催の海邦国体に向けて、昭和56年に沖縄県なぎなた連盟を設立以来会長を務め、私財を投じて全日本なぎなた連盟の指導者を招聘し、組織強化及び選手強化に務めた。その結果、海邦国体では最初の総合優勝を果たした。国体後も会長の支援により全国大会等で、優勝及び上位入賞を果たしている。
7	まつだ とみお 松田 富雄	うるま市体協	平成19年よりうるま市体育協会の副会長、会長を歴任し、その間うるま市スポーツ少年団本部長も兼任。本市のスポーツ普及に尽力している。
8	たまき まなぶ 玉城 学	八重山郡スポ協	陸上競技の競技者として跳躍競技で長きにわたり、本県を代表する選手として活躍。また、指導者としては、長年携わりインターハイ、国体で数多くの優秀選手を排出。後進の育成、指導に力を注ぎ多くの後継指導者を輩出した。さらに、陸上競技公認審判員として多種大会運営に携わる。八重山郡体育協会(現スポーツ協会)では、副会長、会長を長年歴任し、加盟団体をとりまとめ、沖縄県民体育大会地元大会を成功裏に導き本郡スポーツ振興発展と本県スポーツの底上げに大きく寄与した。
9	かみや やすお 神谷 育雄	県スポ協	平成17年4月から平成21年3月まで専務理事、平成21年4月から平成28年6月まで副会長を務め、本県スポーツの普及・発展に貢献した功績。
10	さくもと つぐお 佐久本 嗣男	県スポ協	平成28年6月から令和2年6月まで副会長、平成29年4月から令和2年6月まで理事長を兼務し、本県スポーツの普及・発展に貢献した功績。
11	ずけらん おさゆき 瑞慶覧 長行	県スポ協	平成28年6月から令和4年6月まで副会長、令和2年6月から令和4年6月まで理事長を兼務し、本県スポーツの普及・発展に貢献した功績。

創立100周年事業功労者等表彰実施要項(抜粋)

(1) 特別功労者表彰

本県スポーツの普及発展のために貢献し、特に功績が顕著な者を表彰する。

- ① 沖縄県スポーツ協会において特に功績があったと認められる者。(物故者及び現役員は除く)
- ② 加盟団体において特に功績があったと認められる者。但し、各団体1名とする。(物故者を除く)

(2) 感謝状贈呈

沖縄県スポーツ協会への協賛・寄附等、多大な協力をいただいた企業・団体等(個人含む)へ感謝状を贈呈する。

令和6年 公益財団法人 沖縄県スポーツ協会表彰 受賞者（団体）一覧

※スポーツ功労賞 規程第2条（1）、細則第2条（1）①②、第3条（1）に該当

[本会加盟団体役員（会長・副会長・理事）として20年以上、55才以上、会長：10年以上]

No.	氏名	年齢	在職年数	推薦団体	功 勞 の 概 要	備 考
1	とけし あきら 渡慶次 晃	55	21	ウエイトリフティング協会	永年にわたり協会役員として活躍し、競技の普及発展・選手強化に尽力。 また、高体連専門委員長として全国高校総体（南部九州総体）を成功に導く。 後進の指導も積極的に行うなど、次代を見据えた取り組みにおいても中心的な役割を果たす。	理 事：21年
2	うちみね まさひで 内嶺 政秀	63	20	柔道連盟	永年にわたり沖縄県柔道の普及発展に寄与するとともに少年柔道の指導、健全育成に尽力した。 また、柔道連盟理事としても競技力向上・発展に多大な貢献をした。 現在も連盟理事及び総務として柔道の指導普及発展に寄与するとともに、少年の健全育成にも尽力している。	理 事：15年 常任理事：5年
3	おおぞみ ちようかく 大宜見 朝寛	83	21	パワーリフティング協会	永年にわたり沖縄県パワーリフティング協会役員として競技の普及発展に尽力した。	常任理事：6年 会 長：15年
4	はまざと はじめ 濱里 一	61	25	パワーリフティング協会	永年にわたり協会役員として沖縄県パワーリフティング協会の普及発展に尽力した。	理 事：22年 理 事 長：3年

※最優秀競技者賞 規程第2条（4）、細則第2条（4）に該当

[令和6年に最も優秀な成績を収めた者]

No.	氏名	年齢	推薦団体	大会名	成績
1	みやもと まさのり 宮本 昌典	27	ウエイトリフティング協会	第33回オリンピック競技大会 ウエイトリフティング 73kg級	6位

※優秀競技者賞 規程第2条（5）、細則第2条（5）①②③、第3条各号に該当

[オリンピック・世界選手権に日本代表として出場、全国規模大会で優勝、国際大会3位以内]

No.	氏名	年齢	推薦団体	大会名	成績
1	たいら りみか 平良 吏美華	16	水 泳 連 盟	第47回全国JOCジュニアオリンピック水泳競技会 100m自由形	1位
2	ぎは まさと 座波 政斗	19	ボウリング連盟	2024 IBF世界ユース選手権大会 男子4人チーム	3位
3	しもじ よしなお 下地 良尚	17	ボウリング連盟	第48回全日本高校ボウリング選手権大会 男子	1位
4	またよし けんた 又吉 健斗	24	体 操 協 会	第22回全日本タンプリング・ダブルミニトランポリン競技選手権大会 タンプリング競技	1位

5	ひねた りのん 棟田 琳音	14	体 操 協 会	第17回アジアジュニア体操競技選手権大会 体操女子	1位
6	ひが せい 比嘉 成	19	ウエイトリフティング協会	第38回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会 女子55kg級 ※スナッチ日本新記録、トータルジュニア日本新記録	1位
7	あめく ほしな 天久 星七	16	ウエイトリフティング協会 高等学校体育連盟	第71回全国高等学校ウエイトリフティング競技選手権大会 男子55kg級 ※スナッチ大会タイ記録	1位
8	ひが あゆ 比嘉 歩	14	ウエイトリフティング協会	第38回全国男子中学生ウエイトリフティング選手権大会 男子61kg級 ※スナッチ、ジャーク、トータル日本中学新記録	1位
9	よしだ すずみ 吉田 涼	23	柔 道 連 盟	第54回全日本実業柔道個人選手権大会 女子48kg級	1位
10	せなが ひろむ 瀬長 拓夢	17	なぎなた連盟	第19回全国高等学校なぎなた選抜大会 個人試合	1位
11	とみかわ あき 富川 亜紀	19	なぎなた連盟	第63回全日本学生なぎなた選手権大会 団体試合(副将)	1位
12	しもじ かな 下地 花南	21	なぎなた連盟	第63回全日本学生なぎなた選手権大会 演技競技	1位
13	きな つばさ 喜納 翼	34	障がい者スポーツ協会	パリ2024パラリンピック競技大会 パラ陸上・マラソン	12位
14	またよし こうと 又吉 康十	30	名護市スポーツ協会	World Para Athletics 公認 2024ジャパンパラ陸上競技大会 パラ陸上競技 男子T64走幅跳	1位
15	まえしろ こう 真栄城 豪	15	中学校体育連盟	第32回 全国中学生空手道選手権大会 男子個人形	1位

※ 優秀チーム賞 規程 第2条 (5)、細則 第2条 (5) ① ② ③、第3条各号に該当

[オリンピック・世界選手権に日本代表として出場、全国規模大会で優勝、国際大会3位以内]

No.	チーム名	推薦団体	大会名	成績
1	ちゅうぶ とくしゅうかいびょういん 中部徳洲会病院	バレーボール協会	2024年度第77回全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会	1位
2	スポーツクラブKENKEN	体 操 協 会	第22回全日本タンリン・ダブルミニトランポリン競技選手権大会 ダブルミニトランポリン競技	1位
3	よなばるちゅうがっこう 与那原中学校 (なぎなた部)	なぎなた連盟	第32回全国中学生なぎなた大会 団体試合	1位
4	やまうちちゅうがっこう 山内中学校 (空手道部)	中学校体育連盟	第32回全国中学生空手道選手権大会 男子団体形	1位
5	かなぐすくちゅうがっこう 金城中学校 (空手道部)	中学校体育連盟	第32回全国中学生空手道選手権大会 女子団体形	1位

※ 優秀指導者賞 表彰規程第2条（6）、細則第2条（6）に該当

〔競技者に対し2年を超える指導で、オリンピック・世界選手権大会へ出場、全国大会で優勝、国際大会3位以内に入賞〕

※中学生、高校生の指導者は1年を超える指導歴

No.	氏名	年齢	指導年数	推薦団体	競技	競技者(チーム)名	大会名	成績
1	平良 俊晴	40	10	水泳連盟	水泳 100m自由形	平良 里美華	第47回全国JOCジュニアオリンピック水泳競技会 100m自由形	1位
2	下地 良信	50	9	ボウリング連盟	ボウリング男子	下地 良尚	第48回全日本高校ボウリング選手権大会 男子	1位
3	金城 直樹	43	4	バレーボール協会	バレーボール	中部徳洲会病院	2024年度第77回全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会	1位
4	又吉 健一	50	2	体操協会	タンブリング競技 グザミントランポリン競技	又吉 健斗 スホ・ワーククラブ KEN KEN	第22回全日本タンブリング・グザミントランポリン競技選手権大会 タンブリング競技 第22回全日本タンブリング・グザミントランポリン競技選手権大会 グザミントランポリン競技	1位 1位
5	比嘉 敏彦	53	3	ウエイトリフティング協会 高等学校体育連盟	女子 55 kg級 男子 55 kg級	比嘉 成 天久 星七	第33回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会 女子55kg級 第33回全日本男子ウエイトリフティング選手権大会 男子55kg級	1位 1位
6	笠原 松美	74	2	なぎなた連盟	なぎなた 団体試合	与那原中学校	第32回全国中学生なぎなた大会 団体試合	1位
7	瑞慶山 良作	44	2	なぎなた連盟	なぎなた 個人試合	瀬長 拓夢	第19回全国高等学校なぎなた選抜大会 個人試合	1位
8	下地 隆之	43	11	偏がい者スポーツ協会	パラ陸上 マラソン	喜納 翼	パリ2024パラリンピック競技大会 パラ陸上・マラソン	12位
9	金城 新	33	4	中学校体育連盟	空手道 団体形	山内中学校	第32回全国中学生空手道選手権大会 男子団体形	1位
10	上村 拓也	32	10	中学校体育連盟	空手道 団体形	金城中学校	第32回全国中学生空手道選手権大会 女子団体形	1位

公益財団法人沖縄県スポーツ協会表彰規程（抜粋）

【趣 旨】

第1条 沖縄県のスポーツの発展に貢献し、その功績が顕著で推奨に値するものの表彰について必要な事項を定める。

【表彰の種類と対象】

第2条 表彰の種類と対象は次のとおりとする。

(1) スポーツ功労賞

永年にわたり沖縄県スポーツ界の発展に尽力し、その功績が顕著で推奨に値する業績があった者。

(4) 最優秀競技者賞

当該年において最も優秀な成績を収めた者。

(5) 優秀競技者賞

各種競技会（国民スポーツ大会を除く）において、優秀な成績を収めた者及びチーム。

(6) 優秀指導者賞

競技者の発掘育成及び技術指導に携わり優秀な競技者の育成に尽力し、その功績が顕著で推奨に値する業績があった者。

公益財団法人 沖縄県スポーツ協会の沿革

大正13年4月(1924年)	民間のスポーツ愛好者により「沖縄運動協会」が結成される。(初代会長・当間重剛)
昭和5年11月	文部省や県の行政指導により「沖縄県体育協会」が設立され総裁に井野次郎知事、会長に吉田賢男県学務部長が就任した。
昭和20年4月1日	米軍、沖縄本島に上陸。地上戦闘苛烈を極め、焦土と化し潰滅的な打撃をうける。米軍の占領下にあつて、社会秩序の回復は遅く、しばらくの間は、市町村間の往来も自由にできず、あらゆる面で忍従をよぎなくされた。
昭和21年4月14日	沖縄体育協会発足(会長 当間重剛)
昭和21年9月28日	「全島秋季体育大会」開催。(9月～10月)
	厳しい占領統治下にあつても、当時の沖縄民政府の文教部、文化部と体育協会の三者の共催で「全島秋季体育大会」を行った。
	(野球、陸上競技、バレーボール、バスケットボール、卓球、沖縄相撲の6競技実施) 戦争ですべてを失った沖縄の若者に、スポーツを通して希望と気力を与え、戦後の沖縄スポーツの振興に大きく寄与した画期的な快挙であった。
昭和23年7月13日	「沖縄体育協会」再建発足。(事務所：知念村親慶原の民政府文化部内)
	本会運営の充実を図り、県内における各種体育スポーツ団体を統轄してスポーツを振興し、県民の体育向上を図り、スポーツ精神を養うことを目的として沖縄体育協会が再建発足した。
昭和27年	国民体育大会に初参加。米国の施政権下にあつて、第7回国体(福島・宮城・山形)大会に初めて沖縄選手団・11名(陸上競技)が参加した。
	祖国日本から分離された状況の中において、国体参加の意義は極めて大きく、それを契機にスポーツの振興は飛躍的に進展した。
昭和32年4月6日	法人組織に移行し「財団法人 沖縄体育協会」と名称を改めた。
昭和41年9月5日	沖縄県スポーツ少年団創設。
昭和47年5月15日	本土復帰により、名称も『財団法人 沖縄県体育協会』となった。
昭和48年3月	「体協会館」建築完成。
昭和48年5月3～6日	「復帰記念特別国民体育大会」“若夏国体”が開催された。この年から、九州ブロック大会(国体予選競技)を経て国体に出場するようになった。
昭和52年12月6日	第42回国民体育大会(昭和62年開催)の誘致を本会評議員会で決議した。
	昭和55年頃から国体誘致により未普及競技の組織を促進し、その育成と充実を図る。
	A. 新規に組織された競技団体：(1) アマチュア自転車 (2) 馬術 (3) ホッケー (4) フェンシング (5) 漕艇 (6) スキー
	B. 組織を編成替えし、内容の充実を図る等をして、再出発した競技団体： (1) 空手道 (2) カヌー (3) 銃剣道 (4) なぎなた
昭和56年	国民体育大会第1回九州ブロック大会(福岡)開催。
昭和59年7月4日	日体協理事会で沖縄県開催を正式に決定した。【第42回国民体育大会(夏季・秋季)】

昭和62年	第42回国民体育大会“海邦国体”開催。天皇杯、皇居杯を獲得し、総合優勝を成し遂げた。
昭和63年3月28日	(9月20～23日・夏季大会)(10月25～30日・秋季大会) 県民体育大会の主会場として先島地区における開催が決定。(第44回・平成4年度から)「那覇→中部→北部→南部→先島」の5会場のローテーション実施となる。
平成4年4月1日	県ゲートボール連合、県山岳連盟が加盟
平成7年4月1日	県ゴルフ協会加盟。現在、本会の加盟団体は競技団体(41)、地方団体(12)、学校体育団体(3)、合計(56)
平成6年6月17日	(財)沖縄県体育協会 協会旗一般公募(作品:知念繁夫氏)により制定
平成7年3月	「沖縄県体育協会史」を発刊。
平成8年5月	「ゴルフ募金」の活動開始。
平成9年3月	沖縄県スポーツ少年団「創設30周年記念誌」を発刊。
平成10年7月	国民体育大会ユニフォームのデザイン変更(夏・秋季)
平成10年10月	(財)沖縄県体育協会寄附行為の改正
平成11年2月	国民体育大会ユニフォームのデザイン変更(冬季)
平成12年4月1日	県トライアスロン連合が加盟
平成13年1月	(財)沖縄県体育協会将来構想策定検討委員会の答針を受け、理事会において決定
平成14年4月1日	県ダンススポーツ連盟、県武術太極拳連盟が加盟。
平成14年5月23日	豊見城市体育協会が加盟。
平成16年4月1日	県グラウンド・ゴルフ協会が加盟。
平成17年4月1日	県少林寺拳法連盟が加盟。
平成18年5月25日	市町村合併(具志川市、石川市、勝連町、与那城町)により、うるま市へ名称変更。 南城市体育協会(市町村合併:知念村、佐敷町、玉城村、大里村)が加盟。
平成20年4月1日	現在、本会加盟団体は競技団体(46)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(63) 県スケート連盟が加盟。
平成24年4月1日	現在、本会加盟団体は競技団体(47)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(64) 公益財団法人沖縄県体育協会へ移行。 「特定公益増進法人」の資格を取得。
平成25年4月1日	体協会館の老朽化に伴い移転(那覇市山下町18-26の沖縄県住宅供給公社内)
平成26年6月12日	県障がい者スポーツ協会が加盟。 現在、本会加盟団体は競技団体(48)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(65)
平成27年4月30日	「沖縄県体協スポーツ会館」完成(那覇市奥武山町51-2)
平成27年5月22日	沖縄県体協スポーツ会館落成式典並びに創立90周年(平成26年)事業開催。
平成27年6月11日	県ウォーキング協会が加盟。 現在、本会加盟団体は競技団体(49)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(66)
平成27年9月	国民体育大会ユニフォームのデザイン変更(本大会)
平成28年4月1日	公益財団法人変更認定 (スポーツコンベンション事業の新規設置・会館管理運営事業を公益目的事業へ変更)

平成28年6月16日	<p>県合気道連盟が加盟。</p> <p>現在、本会加盟団体は競技団体(50)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(67)</p> <p>県ペタンク協会が加盟。</p>
平成29年4月1日	<p>現在、本会加盟団体は競技団体(51)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(68)</p> <p>会長制から理事長制(法人法上の代表理事)に組織改編。</p>
平成30年6月19日	<p>県エアロビック連盟が加盟。</p> <p>現在、本会加盟団体は競技団体(52)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(69)</p>
令和元年6月18日	<p>県キンボールスポーツ連盟が加盟。</p> <p>現在、本会加盟団体は競技団体(53)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(70)</p>
令和2年4月1日	<p>公益財団法人沖縄県スポーツ協会に名称変更。</p>
令和2年6月16日	<p>県ボディビル・フィットネス連盟が加盟。</p> <p>現在、本会加盟団体は競技団体(54)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(71)</p>
令和6年6月18日	<p>県バウンドテニス協会が加盟。</p> <p>現在、本会加盟団体は競技団体(55)、地方団体(14)、学校体育団体(3)、合計(72)</p>

公益財団法人沖縄県スポーツ協会創立100周年事業実行委員会設置要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、公益財団法人沖縄県スポーツ協会（以下「本会」という。）が1924年（大正13年）に設立され2024年（令和6年）に100周年を迎えるにあたり、周年行事の実施に向け事業内容の企画・立案を行うため実行委員会を設置する。

(事 業)

第2条 事業内容は、以下のとおりとする。

- 1 記念式典（祝賀会）の開催
- 2 基調講演の開催
- 3 顕彰事業
- 4 記念史の発刊
- 5 その他、目的を達成するための事業

(組 織)

第3条 実行委員会の委員は、本会理事4名、評議員2名、学識経験者2名の8名とする。

- 2 委員長は、本会副会長とする。
- 3 副委員長は、本会専務理事とする。

(職 務)

第4条 委員長は、実行委員会を代表し、会務を総理する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたとき、その職務を代理する。

(部会及び業務内容)

第5条 実行委員会に、各種事業を行うため部会を設置する。

- 2 設置部会
 - (1) 総務・式典部会 5名以内
 - (2) 記念史編集部会 10名以内
- 3 その他、必要に応じ部会を設けることができる。
- 4 部会は、委員及び有識者をもって構成し、部会長は副委員長が兼ねるものとする。
- 5 総務・式典部会は、記念式典・基調講演・顕彰事業全般に関する業務を行う。
- 6 記念史編集部会は、記念史の発刊全般に関する業務を行う。

(事業内容の決定)

第6条 事業内容は、実行委員会で作成し、本会理事会へ報告する。

(事務局)

第7条 事業を円滑に進めるため、実行委員会のもとに事務局を置き、事務局員の構成は別表のとおりとする。

(解 散)

第8条 実行委員会は、所期の目的を達成後に解散するものとする。

附 則

- 1 この要項は、令和6年7月30日から施行する。（理事長決裁）